

船舶事故調査報告書

平成24年12月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年5月17日 22時30分ごろ
発生場所	香川県高松市高島東方沖 香川県さぬき市所在の大串埼沖灯標から真方位309°4,150m付近 （概位 北緯34°23.6′ 東経134°10.6′）
事故調査の経過	平成24年5月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第八鋼運丸、498トン 134849、坂本海運株式会社 76.43m×12.00m×7.00m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成7年2月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 72歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和43年1月26日 免状交付年月日 平成21年3月12日 免状有効期間満了日 平成26年5月10日
死傷者等	なし
損傷	船首船底部に亀裂、凹損及び擦過傷
事故の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、スラグ約1,530tを積載し、船首約3.26m、船尾約4.92mの喫水で平成24年5月17日18時35分ごろ兵庫県東播磨港を出港して新潟県新潟港に向かった。</p> <p>船長は、椅子に座り、自動操舵で約237°（真方位、以下同じ。）の針路とし、約9.5ノットの対地速力で航行した。</p> <p>船長は、19時ごろ食事のために一等航海士と船橋当直を交代し、19時30分ごろ昇橋して再び船橋当直に就き、香川県小豆島南西にある大角鼻<small>おかど</small>の南方約0.3海里沖において、針路を約260°に定めた。</p> <p>船長は、小豆島地蔵埼南東方沖を航行していたとき、右舷船首前方に漁ろう中の漁船を視認したので、避航するために約5°左舵を取り、針路を約255°にした際、疲労を感じていたが、強い眠気は感</p>

	<p>じていなかったの、椅子に座ったまま船橋当直を続け、漁船が右舷側に通過したのを確認し、前路に他船を認めなかったのが緩み、その後、居眠りに陥った。</p> <p>本船は、備讃瀬戸東航路の入口付近の変針予定場所に近づいたが、船長が居眠りをしていたので、変針せずに通過した。</p> <p>船長は、乗り揚げる直前、前方の高島の島影に気付き、立ち上がって機関を全速力後進にかけたが、22時30分ごろ高島東岸の砂浜に乗り揚げた。</p> <p>船長は、後進をかけたものの、本船が離礁しなかったの、22時44分ごろ海上保安部に事故の発生を連絡し、本船は、19日09時50分ごろ積荷をバージに瀬取りした後、21時45分ごろタグボートに引かれて離礁し、瀬取りした積荷は、高松市高松港で積み直して24日に新潟港で揚げ荷した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期</p>
その他の事項	<p>本船の船橋当直は、船長、一等航海士及び二等航海士の3人により、4時間交替の輪番制で行われていた。</p> <p>船長は、1日平均6時間の休息をとっていたが、短時間の航海を連続で行い、出入港操船、ドラフト計算、ペンキ塗り、船倉の清掃作業なども行っていたこともあり、睡眠時間が短時間であることに加えて不規則で停泊時間も短く、疲労が蓄積して睡眠不足の状態であった。</p> <p>本船に船橋航海当直警報装置（居眠り等の当直者の異常を感知した場合、船橋、船長室等に警報を鳴らすことにより、事故を防ぐシステム）はなかった。</p>
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	<p>本船は、地蔵埼南方沖を自動操舵により南西進中、漁船を避航した後、単独で船橋当直中の船長が居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して高島東岸に向けて航行し、同島東岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、漁船を避航した後、前路に他船が認められなかったのが緩んだこと、及び疲労が蓄積して睡眠不足の状態であったことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、地蔵埼南方沖を自動操舵により南西進中、単独で船橋当直中の船長が居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過して高島東岸に向けて航行し、同島東岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>本船の船舶所有者は、本事故後、本船に船橋航海当直警報装置を設</p>

	<p>置した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船橋当直者は、疲労を感じたときは、椅子から立ち上がって体を動かしたり、コーヒーを飲んだり、ガムをかんだりするなどの居眠り防止策を採ること。
--	---